

「全鍍連」 2025年 4月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 岩田 圭祐 (株)東洋 専務取締役)

「損して得とる勇氣」

茨城県は関東有数のゴルフ場保有県であり、中でも県南地区のつくばみらい市は毎年、サロンパスカップの舞台となる茨城ゴルフ倶楽部をはじめ4つのゴルフ場を有している。

おもしろいことに同市の働き方改革の一環として、2025年度から職員の「ゴルフ場」での副業を認める判断が下ったようだ。

これは人手不足に悩まされるゴルフ場と、「ゴルフのまち」を謳うつくばみらい市との思惑が合致した結果である。近年では圏央道の開通に伴い、ゴルフ場でより多くの県外ナンバーを今まで以上に多く見るようになった。

さらに茨城県は韓国メディアに対し、以前よりゴルフ客誘致のプロモーションを展開し、その結果2023年の韓国人観光客は過去最多の17千人と功を奏している。これをきっかけに、今後は韓国人専用の名門ゴルフ場でプレーできるツアーを検討している話もある。

この理由は茨城空港や成田空港から近いこと、韓国の12月～2月の平均気温が氷点下になること、平地の少ない韓国国内ではゴルフのプレー費が週末で4～5万円と高額なことなどから茨城県が選ばれている。

しかし、マナーやしきたりを重んじる名門ゴルフ場が一見さんの韓国観光客に門戸を開くのだろうか？ もちろんインバウンドを受け入れることによる、ゴルフ場や近隣のホテル利用での県内の経済効果が大きく見込めるのは確かであるが、外国客が増えれば自ずと通訳の人数確保も必要となり、細部にまで行き届いたサービス品質がどこまで提供できるのか懸念される。

茨城県内の人口はつくばエクスプレス沿線以外の市では過疎化が進んでいる一方で、つくば市やつくばみらい市など県南地域はこの10年、大企業の工場や大型物流倉庫の建設ラッシュとなり、人手不足が他の地域よりも加速している。

個人的には「目先のインバウンド獲得も良いが、10～20年後の働き手を増やし、育てるための施策が必要では？」と思う。

最後になるが、冒頭で述べたように圏央道の開通により南関東からもアクセスが良くなったことから、ぜひ一度、茨城県の名門といわれるゴルフ場に足を運んでいただき、広いフェアウェイでプレーを楽しんでいただければ幸いである。